

## 異常づくめ、3月10日告示の市長選

# 立候補の予定者3~4名を招き「公開討論」

4月の統一地方選挙で市議選とダブルで行われる予定だった明石市長選挙は、泉市長が暴言問題で突如辞職したことから3月10日告示、17日投・開票に繰り上がりましたが、12月に出馬表明していた泉氏と前任市長の北口氏が沈黙を守ったまま選挙の構図が不透明なままでした。告示16日前になった22日、新町美千代・元県議が共産党公認で立候補を表明しました。泉氏は沈黙を守ったままですが、北口氏は24日になって後援会関係者に事実上の出馬表明の文書を送り、にわかに慌たしくなってきました。

市民自治あかしは告示1週間前の3月2日(土)午後2時から、市民会館中ホールで立候補予定者を招き「公開討論会」を開催します。先週2回にわたる討論市民集会を開いて討議にかけた「市民マニフェスト」を提案し、候補予定者と意見交換して、候補予定者の政策を市民の視点から明らかにしていきます。

新町氏と北口氏はすでに出席を約束しているほか、25日になって元加西市長の中川暢三氏も出馬の意向を表明し、出席を約束しています。泉氏には出馬表明があり次第、出席を正式に要請します。多くの皆様のご来場をお待ちします。

## 第3次市民マニフェスト 「自治基本条例の遵守」など「7テーマ、17項目」

市長選挙の公開討論会で立候補予定者に提案し意見交換する「市民マニフェスト」は、今回で3回目。8年前の市長選挙に際して「市民がつくる市民の政策」として、市民が望むまちづくりや市政運営などをまとめたもので、今回は7つのテーマで17の項目にまとめました。(裏面にマニフェストの詳細)

公開討論会では、立候補した理由や重点政策を聞くとともに、これらの政策について一つずつ提案し、どのように取り組むのかを応えてもらい、意見交換します。

候補予定者には事前に市民マニフェストの内容を説明し、当日の質問項目なども提示して、かみ合った討論になるように要請します。

過去2回の公開討論会では、開催直前になって欠席した候補者は、いずれも選挙で落選しています。公開討論会で政策について市民と意見交換することは、自治基本条例に定めた市政への「市民の参画」と「協働のまちづくり」「情報の共有」という市政運営の原則の基本になるもので、市民自治を掲げる市政のリーダーとして欠くことのできない条件だと認識しています。

**市長選挙  
公開討論会**  
とき **3月2日(土)**  
午後2~4時30分  
ところ **市民会館中ホール**  
◇**入場無料**

# 第3次 市民マニフェスト (2019年版)概要

## 1. 3代連続した「市長辞職・再選断念」という事態を繰り返さない

- ①市長と職員の関係改善を進め、選ばれた責任を全うする市政運営をめざす
- ②市長と職員、議会、市民との関係を、自治基本条例に基づき再検証する

## 2. 自治基本条例の遵守と説明責任を果たす

- ①市民の参画と協働を保障するためにも「説明責任」を重要責務として果たす
- ②住民投票条例を条例検討委員会の答申に沿って速やかに提案する

## 3. 「魅力あるまち明石」をめざした、明石らしいまちづくりを進める

- ①「海と港、ため池などの豊かな水辺環境と自然」「お城や城下町の遺構、古代からの歴史や文化」「新鮮で質の高い魚や近郊野菜などの食文化」を活かしたまちづくりを進める
- ②人口減少・縮小社会を視野に入れて、庁舎移転絡みの新たな駅前再開発など過大な開発事業を抑制し、まちなみ景観の修復や“そぞろ歩き”を楽しめるまちづくりをめざす

## 4. 福祉施策は地域の実情と当事者、事業現場の意見を反映して推進する

- ①支え合いの社会を実現するために「地域総合支援センター」の中学校区への拡大と「地域支え合いの家」をすべての小学校区に広げるための、地域住民の受け皿組織の支援を強化する
- ②高齢者、障がい者の移動の権利を保障する移送サービスの充実強化を図る
- ③乳幼児期および学童期の子育て支援を実効あるものにする

## 5. 人口減少、少子高齢社会の進行に対応し、 拡大成長志向から持続可能社会へ向けての政策転換を図る財政課題に取り組む

- ①人口の「V字型回復」論の中で弛緩している財政対策を再検討する
- ②公共施設の削減と再編の進め方について、参画と協働に基づく議論を進める
- ③新庁舎計画の取り組みについて市民への周知と説明、検討段階での市民参画を行う

## 6. 環境保全と持続可能な社会へ向けた政策転換を図る

- ①生物多様性あかし戦略に基づき、自然と人が共生するまち明石の実現へ向けて具体的な施策の展開を図る。生物多様性あかし戦略推進会議を、他の審議会と同様の諮問機関と位置づけて、提案された施策の具体化を図る。
- ②市街化調整区域の堅持と市街化区域内の農地の保全、ため池の多面的機能を活かしこれ以上の埋め立ての禁止、貴重な里山区域である松陰新田の保全

## 7. 市制百年、明石城築城400年事業を後世に残る事業にする

現在事業化されているものは、一過性のイベントばかりで、市制百年にふさわしい、後世に残る事業が皆無。百周年は後世に残る「明石のまちの特色」を後世の世代や市外の人たちに伝えるものを構想すべきだ。

- ①「城下町明石」をお城の櫓以外にほうふつとさせるものが、何一つない。まちかどに残る「城下町明石」の遺構を整備するなど既存施設を活用した「歴史資料館」のようなものの事業化を計画する
- ②「魚のまち明石」と言いながら、明石の魚や、明石の海の特色などをひと目で学べる場所がない。「魚のまち明石」資料館のようなものを構想する事業化は可能だ
- ③新「明石市史」編さん事業の刊行計画を明確にし、継続事業として計画を策定する